

小栗誠治 教授 略歴と業績

略歴

小栗誠治(おぐり せいじ)

1947年(昭和22年) 7月1日 佐賀県相知町(現唐津市)に生まれる

学歴

1966年(昭和41年) 3月 佐賀県立唐津東高等学校卒業

1967年(昭和42年) 4月 一橋大学経済学部入学

1971年(昭和46年) 3月 一橋大学経済学部卒業

職歴

1971年(昭和46年) 4月 日本銀行 入行

1981年(昭和56年) 11月 日本銀行金融研究局副調査役

1982年(昭和57年) 10月 日本銀行金融研究所副調査役

1983年(昭和58年) 7月 日本銀行調査統計局副調査役

1985年(昭和60年) 3月 日本銀行政策委員会室調査役

1986年(昭和61年) 11月 日本銀行考査局調査役

1987年(昭和62年) 11月 日本銀行松山支店次長

1990年(平成2年) 11月 日本銀行業務局国債業務課長

1991年(平成3年) 5月 日本銀行業務局決済業務課長

1993年(平成5年) 5月 財団法人日本資産流動化研究所調査部長

1995年(平成7年) 5月 日本銀行佐賀事務所長

1998年(平成10年) 1月 日本銀行金融研究所

1998年(平成10年) 4月 滋賀大学経済学部助教授

1999年(平成11年) 3月 滋賀大学経済学部教授

2001年(平成13年) 7月 滋賀大学副学長(平成2004年3月まで)

2002年(平成14年) 3月 中国・東北财经大学から客座教授の称号を授与される

2004年(平成16年) 4月 国立大学法人滋賀大学理事・副学長(平成2004年6月まで)

2004年(平成16年) 7月 国立大学法人滋賀大学経済学部教授(現在に至る)

2005年(平成17年) 4月 ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスにて在外研究(2005年9月まで)

2010年(平成22年) 4月 国立大学法人滋賀大学地域連携センター長(2012年3月まで)

担当科目

(学部)「セントラル・バンキング論」、「ファイナンス市場論」、「演習」

(大学院)「セントラル・バンキング論特講」(博士前期課程)、「金融政策論特殊講義」(博士後期課程)、
「演習」

所属学会

1993年(平成5年) 7月 日本金融・証券計量・工学学会会員(2012年3月まで)

1998年(平成10年) 5月 日本金融学会会員

社会活動

1999年(平成11年) 11月 近江八幡市の公営企業会計における
内部留保資金等保管検討委員会委員長(1999年12月まで)

2007年(平成19年) 4月 滋賀県公金管理外部委員

業績目録

I 著書

『現代日本のセントラル・バンキング—金融経済環境の変化と日本銀行—』(単著)
(滋賀大学経済学部研究叢書第30号/1998年12月)

II 論文

「貨幣と経済活動」(日本銀行懸賞論文入選作、『にちぎん』通巻第202号/1971年10月)

「企業組織の効率性に関する理論について」
(日本銀行特別研究室研究資料(55) I-6/1980年12月)

“Money Market Stability Under Alternative Reserve Requirement Rules”
(堀内昭義氏と共著)(*Hitotsubashi Journal of Economics*, Vol.23 no.1/1982年6月)

「アメリカの金融制度関連用語の解説」(安木米吉氏、太田勉氏と共著)
(『アメリカの金融革命』伊藤政吉、江口英一編<有斐閣>/1983年8月)

「準備預金制度の再検討—マネーサプライおよびマネーマーケット金利の短期的安定性と
所要準備計算方式—」(『金融学会報告57』金融学会編<東洋経済新報社>/1983年9月)

「金融自由化の下での準備預金制度の再検討」
(日本銀行金融研究所研究資料(58) 研2-3/1983年12月)

「昭和58年の資金循環」(『日本銀行調査月報』第35巻第6号/1984年6月)

- 「金融機関の『決算経理基準』をめぐって」(『金融ジャーナル』第28巻第7号／1987年7月)
- 「金融環境の変化と金融政策」(日本銀行業務局／1991年3月)
- 「資産流動化に係る調査業務の概要」(『リース』第23巻2号／1994年2月)
- 「米国の証券化の状況とわが国への示唆」(『SFI会報』第4号／1994年9月)
- 「特定債権法に基づく資産流動化入門」(日本資産流動化研究所／1995年3月)
- 「金融システムの改革—金融ビッグバンによって何が変わるか—」
(九州大学経済学部講義録／1997年7月)
- 「日本の金融市場と金融調節」(『彦根論叢』第315号／1998年11月)
- 「金融システム安定化のための中央銀行の国際協調」
(『国際公共経済研究』第9-10号／1999年8月)
- 「中央銀行の『最後の貸し手』機能—新日本銀行法における位置付けと
発動原則の検討を中心に—」(『彦根論叢』第321号／1999年11月)
- 「金融ビッグバンへの対応を探る」(編著)(滋賀大学産業共同研究センター／2000年3月)
- 「中央銀行のシーニョレッジ、利益処分、資本」(『滋賀大学経済学部研究年報』第7巻／2000年12月)
- 「バジヨット再考—中央銀行の『最後の貸し手』機能—」(『彦根論叢』第332号／2001年10月)
- 「日本の金融政策与金融体制」(曹瑞林译)
(『东北财经大学学报』第22号／中国・東北财经大学／2002年7月)
- 「システミック・リスクと中央銀行の『最後の貸し手』機能」(『彦根論叢』第342号／2003年6月)
- 「日本金融体系的現状分析」(方爱乡译)
(『财经问题研究』第240号／中国・東北财经大学／2003年11月)
- 「金融リスクと中央銀行の役割」
(『リスク時代の経済運営と企業経営』<滋賀大学経済学部リスク研究センター>／2004年3月)
- 「论金融风险与中央银行的职能」(苏杭译, 刘昌黎校)
(『财经问题研究』第246号／中国・東北财经大学／2004年5月)
- 「IT革命下における金融システムの変貌」(共著)
(科学研究費研究成果報告書／研究代表者<分担研究者: 中野桂氏、丸茂俊彦氏>／2004年5月)
- 「セントラル・バンキング原論は可能か?—LSEでの模索—」
(『ニュースレター』第3号<滋賀大学経済経営研究所>／2005年7月)
- 「セントラル・バンキングとシーニョレッジ」(『滋賀大学経済学部研究年報』第13巻／2006年12月)
- 「日本・円、中国・人民元の今後と日中経済関係—為替制度改革の日中比較研究—」
(北條純人氏と共編著)(滋賀大学東アジア経済研究プロジェクト／2007年3月)
- 「日本零利率及数量宽松的金融政策：1999—2006年の経歴」(王玉珊译)
(『东北财经大学 发展研究参考』第66号／中国・東北财经大学／2007年5月)
- 「日中両国の産業・金融政策の比較研究」(原村健二氏と共編著)
(滋賀大学東アジア経済研究プロジェクト／2008年3月)

「セントラル・バンキングの一般原則—イングランド銀行副総裁、
サー・アーネスト・マスグレイブ・ハーヴェイの『中央銀行』(1927年)を中心に—」
(『彦根論叢』第374号／2008年7月)

「中央銀行券の債務性と政府紙幣の特質に関する研究」
(滋賀大学経済学部Working Paper No.126／2010年3月)

「政府紙幣の本質について—中央銀行券との比較を中心に—」
(『彦根論叢』第390号／2011年12月)

Ⅲ 翻訳・書評・その他

(翻訳) ゴールドスミス著「戦後における各国金融機関の発展」
(Raymond W. Goldsmith “The Development of Financial Institutions During the Post-War Period”,
Banca Nazionale del Lavoro, Quarterly Review＜1971年6月＞／日本銀行調査局／1972年7月)

「米国企業におけるシステム開発全般の効果的運営状況」
(米国出張報告書、日本銀行業務管理部／1977年7月)

(書評) 西部邁著『蜃気楼の中へ—遅ればせのアメリカ体験—』(日本評論社、1979年)
(『にちぎん』通巻第304号／1980年4月)

「佐賀県の経済動向」(『佐賀新聞』、1995年8月から1997年11月まで計10回掲載)

「ロンドン時代の田中鐵三郎」(『SAGIN』／1995年11月)

「最近の金融経済情勢について」(『佐賀経済同友』No.485／1996年6月)

「一厘の重み」(『月刊ぶらさ』第11巻第1号／1997年1月)

「『決済』ということ」(『しがぎん調査レポート』No.251／1999年12月)

「大学院グローバル・ファイナンス専攻新設にあたって」(有馬敏則氏、大村和夫氏と共著)
(『彦根論叢』第331号／2001年6月)

「滋賀大学における国際交流の現状と課題」(『国際学術交流セミナー報告集』＜滋賀大学＞／
2002年2月)

「滋賀大学地域連携センターの現状と課題」(『滋賀大学・地域と大学シンポジウム』
＜滋賀大学＞／2011年11月)

「‘Cool Heads but Warm Hearts(冷静な頭脳、温かい心)’の精神で
—『日本経済の成長戦略を考える』①」(『リスクフラッシュ』82号(Vol.3 No.20)
＜滋賀大学経済学部リスク研究センター＞／2012年8月)